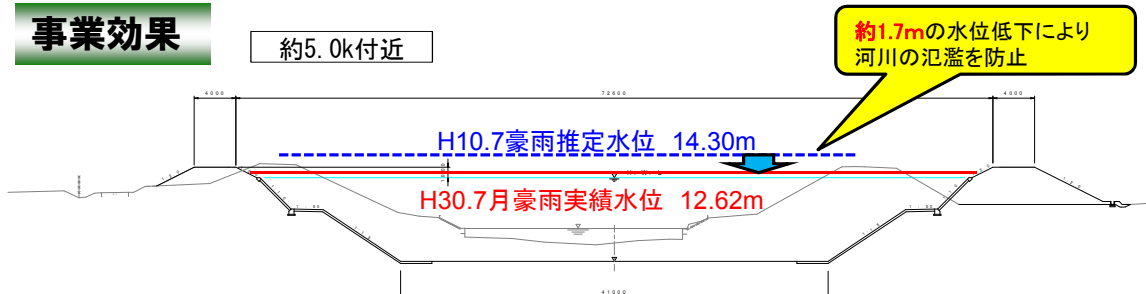


平成30年7月の豪雨による洪水に対して、これまでの河川整備が効果を発揮(浅水川)

- 平成10年7月出水の再度災害防止対策として、基幹河川+災害復旧関連緊急事業および災害復旧助成事業により河川幅を拡幅した。
- 平成30年7月の豪雨においては、平成10年の豪雨と同等の連続雨量が観測された。
- しかし、整備前より水位を下げることができ、河川のはん濫を未然に防げたと推定される。



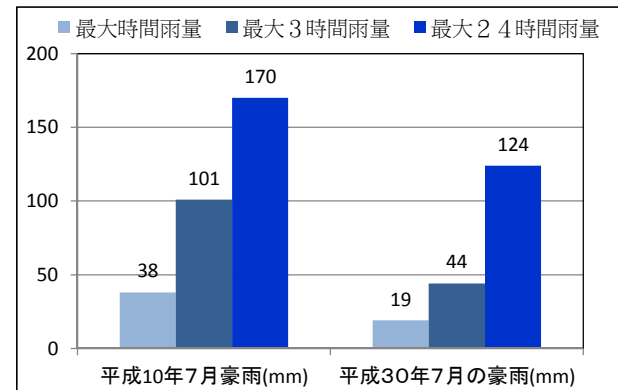
事業効果



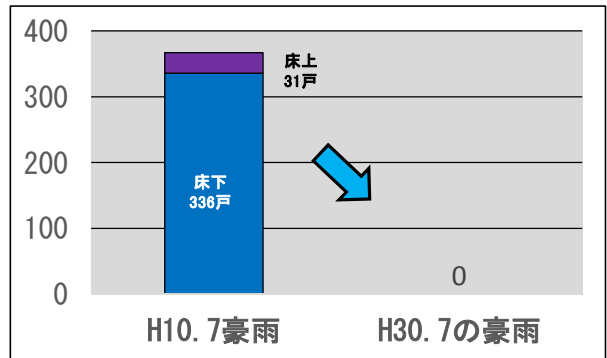
全体計画



雨量の比較(鯖江雨量観測所)



浸水戸数の比較



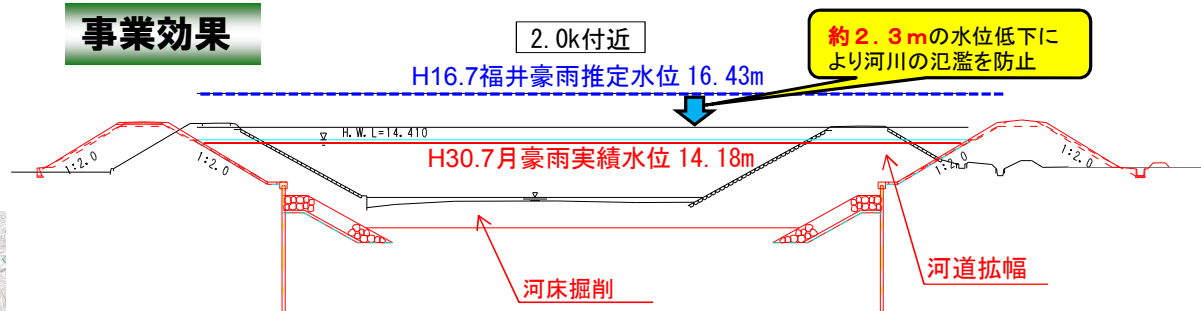
平成30年7月の豪雨による洪水に対して、これまでの河川整備が効果を発揮(鞍谷川)

くらたにがわ

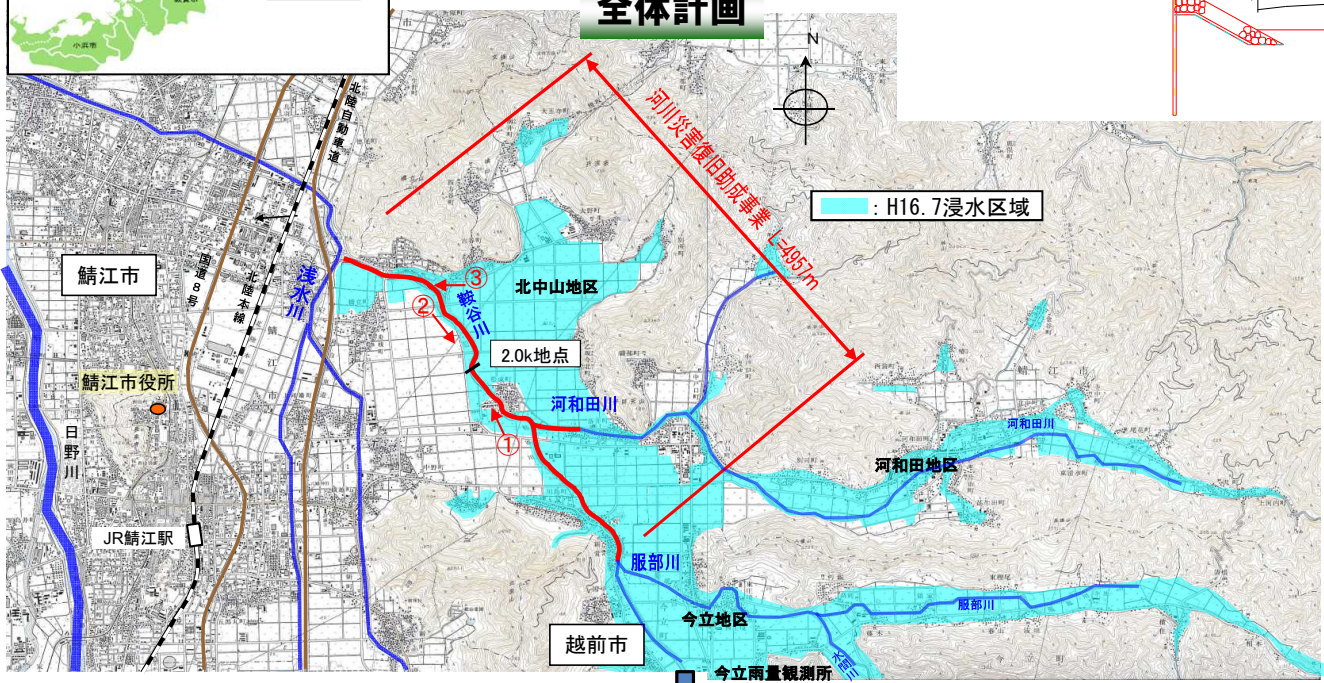
- 平成16年7月出水(福井豪雨)の再度災害防止対策として、災害復旧助成事業により河川幅を約1.1~1.6倍に拡幅し、河床を約1.0~2.5m掘削した。
- 平成30年7月の豪雨においては、平成16年福井豪雨と同等の連続雨量が観測された。
- しかし、整備前より水位を下げることができ、河川のはん濫を未然に防げたと推定される。



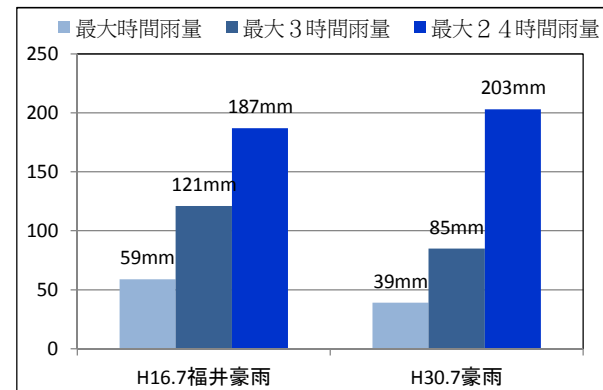
事業効果



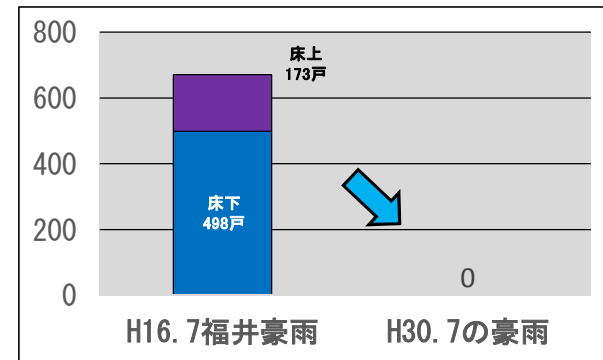
全体計画



いまだて
雨量の比較(今立雨量観測所)



浸水戸数の比較



鞍谷川(平成16年7月18日撮影)



鞍谷川(平成30年7月5日撮影)

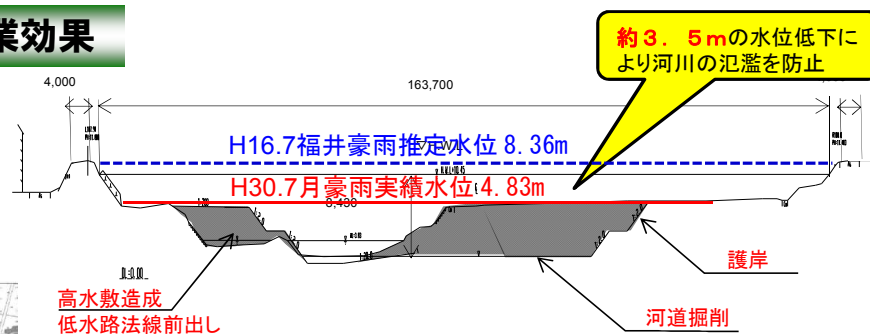


平成30年7月の豪雨による洪水に対して、これまでの河川整備が効果を発揮(足羽川)

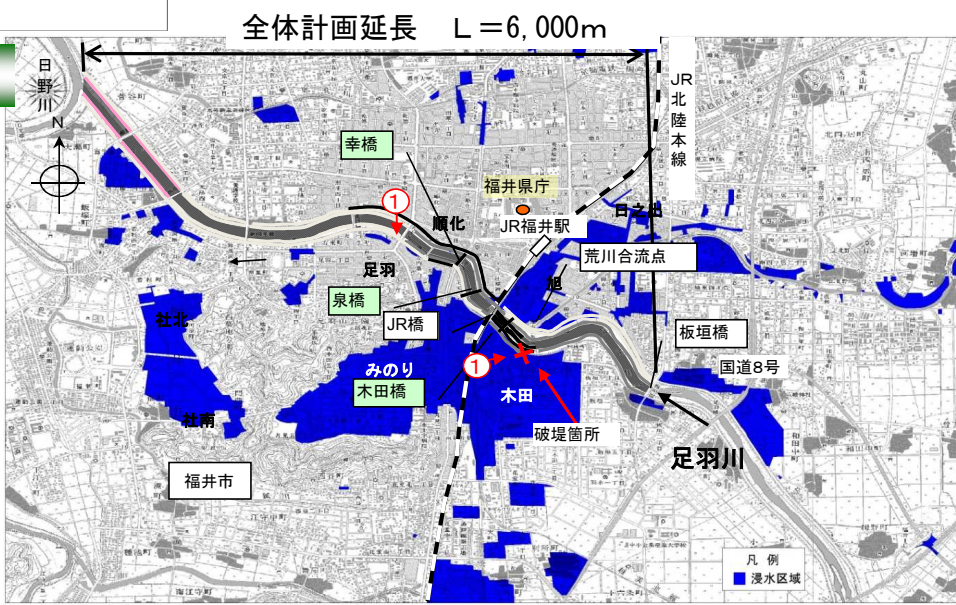
- 平成16年7月出水(福井豪雨)の再度災害防止対策として、河川激甚災害対策特別緊急事業により、河床を約2.0m掘削した。
- 平成30年7月の豪雨においては、平成16年福井豪雨と同等の連続雨量が観測された。
- しかし、整備前より水位を下げることができ、河川のはん濫を未然に防げたと推定される。



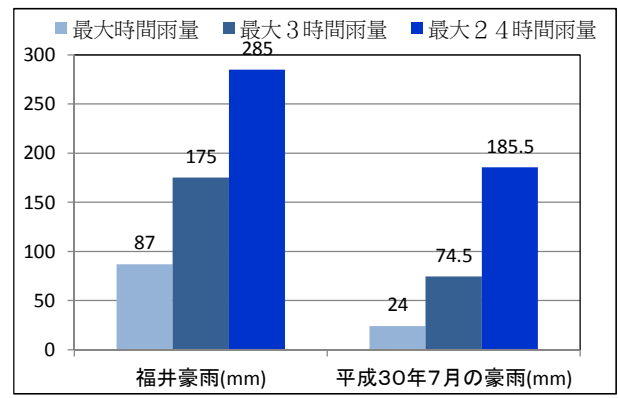
事業効果



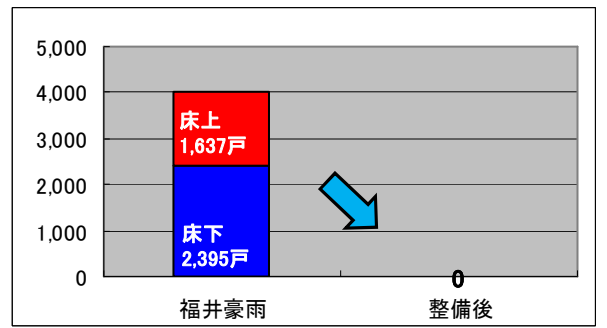
全体計画



雨量の比較(美山雨量観測所)



浸水戸数の比較



足羽川(平成16年7月18日撮影)

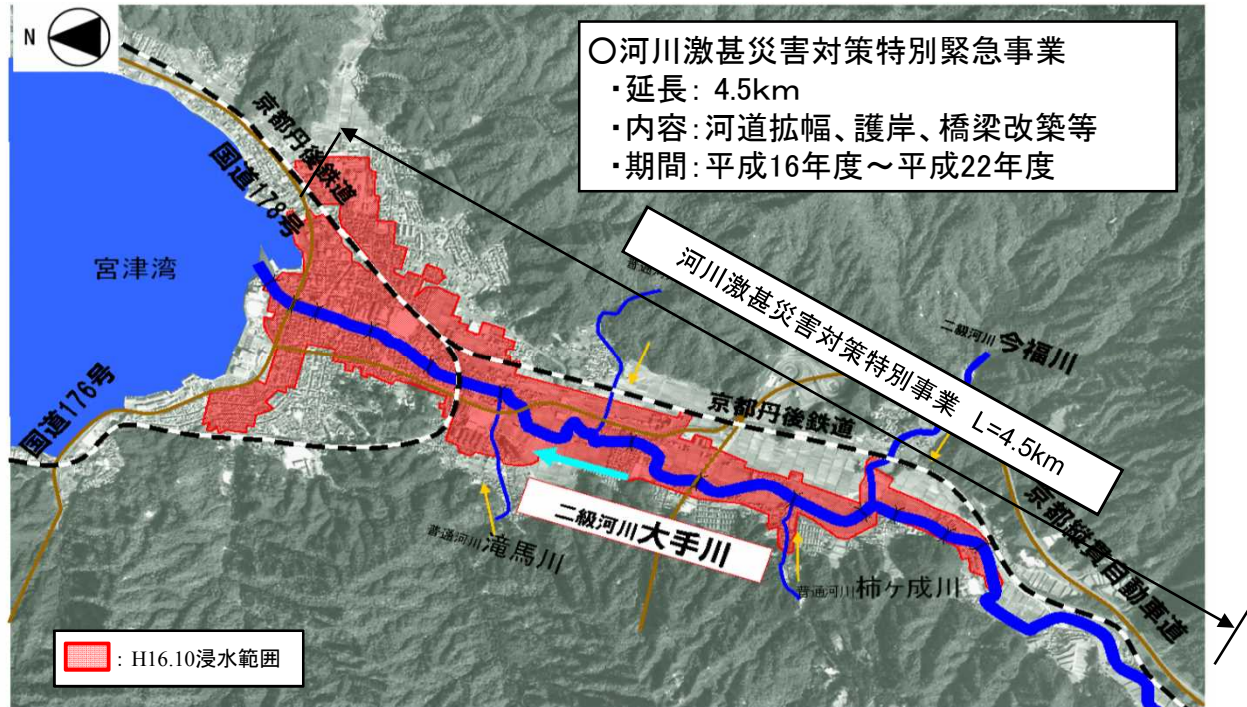
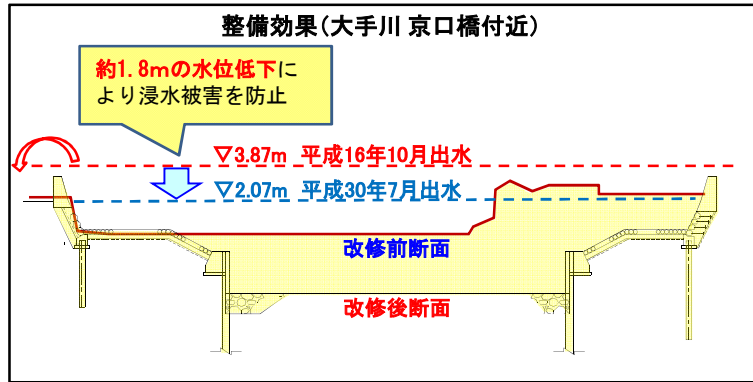
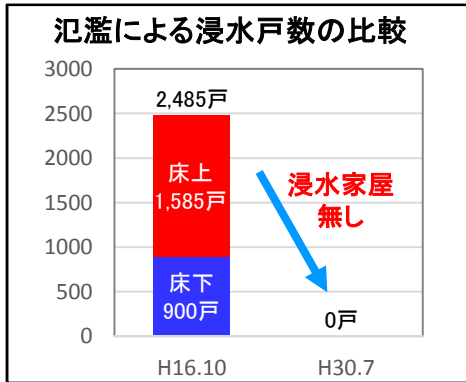
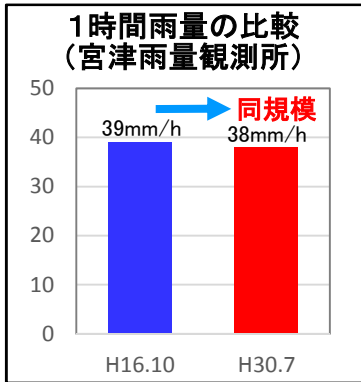


足羽川(平成30年7月6日撮影)



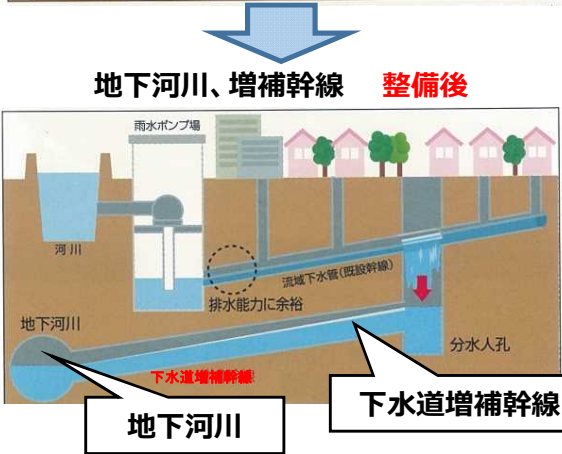
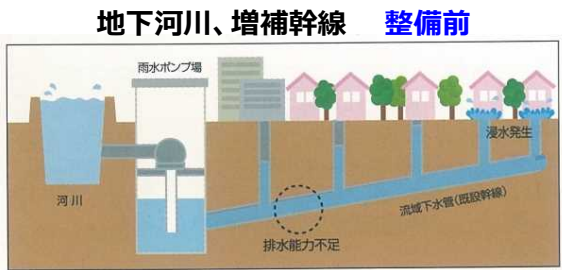
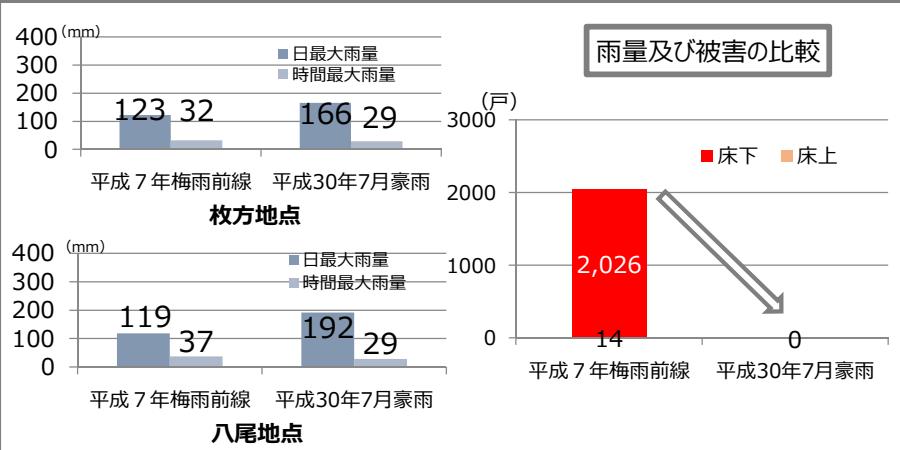
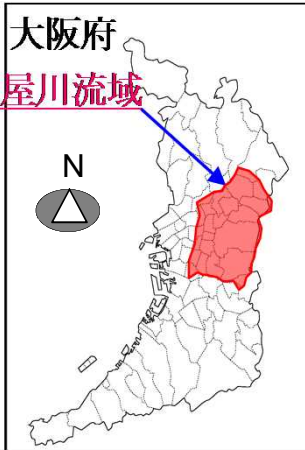
○ 大手川においては、平成16年10月出水の再度災害防止対策として、河川激甚災害対策特別緊急事業を実施。

○ 平成29年9月の台風18号、平成30年7月豪雨においては、宮津雨量観測所で平成16年出水と同等の雨量が観測されたが、河川激甚災害対策特別緊急事業における河道改修により、**整備前と比べて約1.8mの水位を下げることができ、平成16年の被害(床上浸水1,585戸、床下浸水900戸)を未然に防いだと推定される。**



大阪府 平成30年7月豪雨に対して、河川・下水道の一体となった取組が効果を発揮（寝屋川流域）

- 寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった水害対策を実施しており、下水道増補幹線と連携した地下河川、遊水地、調節池等の貯留施設の整備を推進。
- 平成30年7月豪雨では、浸水被害のあった平成7年7月梅雨前線に伴う豪雨と同等の雨量が観測されたが、**河川・下水道の整備等により、約208.9万m³の水を貯留し、浸水被害の防止を図ることができた。**



貯留量 約208.9万m³

※25mプール 約5,800杯分

【外水対策】

- ▲ : 遊水地 3箇所 約137.9万m³

【内水対策】

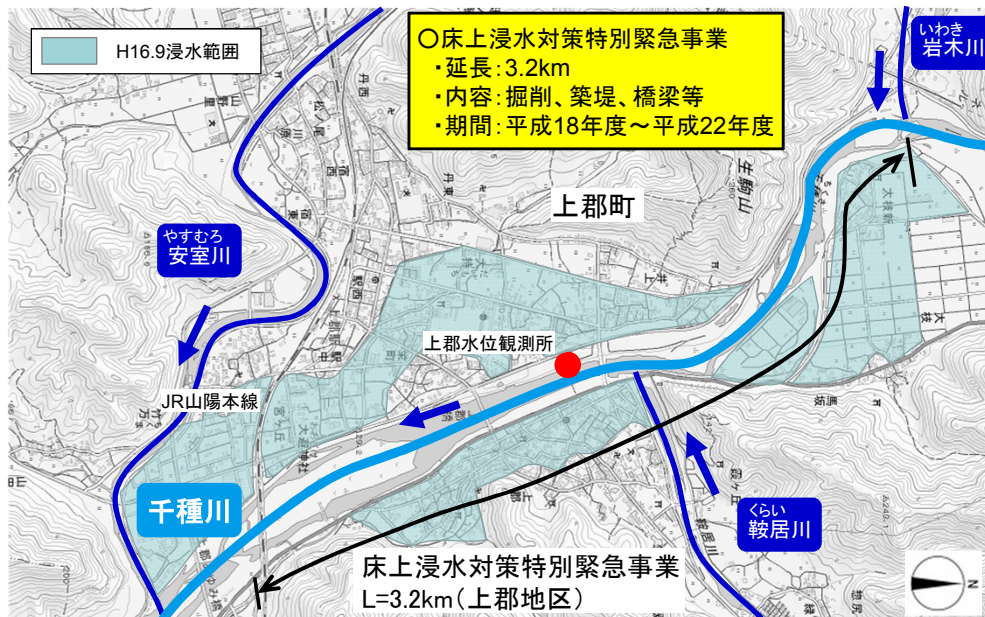
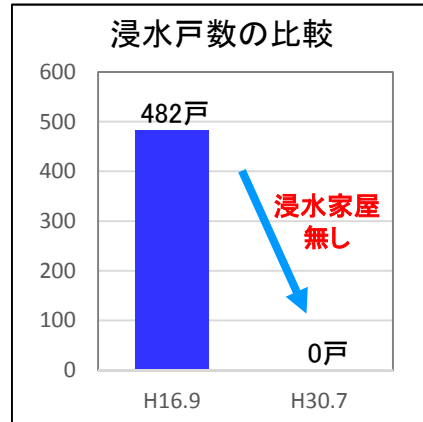
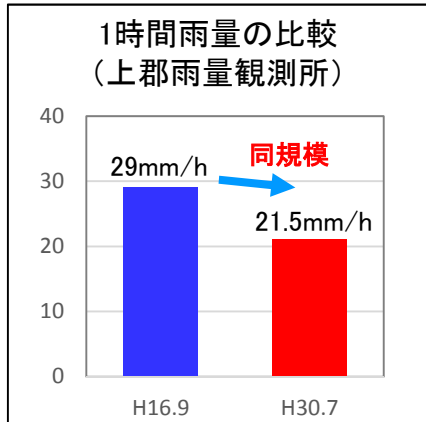
- ★ : 地下河川 約55万m³
- : 下水道増補幹線 約6.6万m³
- ★ : 調節池 18箇所 約9.4万m³



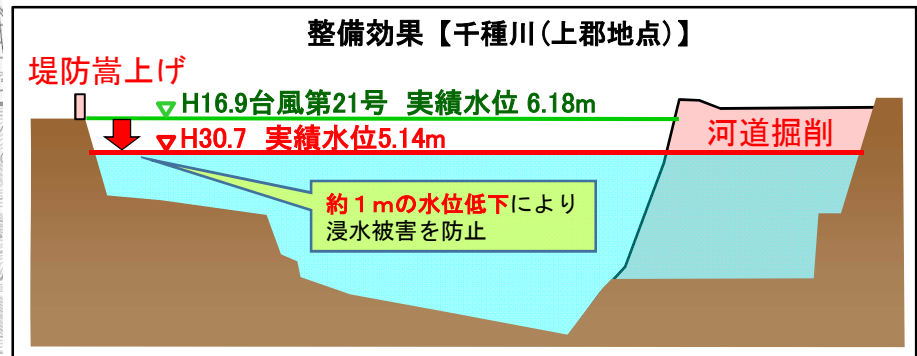
※本資料の数値等は速報値のため、今後の精査により修正する場合があります。

○千種川水系千種川(上郡地区)においては、平成16年9月台風第21号の再度災害防止対策として、床上浸水対策特別緊急事業を実施。

○平成30年7月豪雨による出水では、上郡雨量観測所で平成16年9月出水時と同規模の雨量が観測されたが、床上浸水対策特別緊急事業における河道改修等により、上郡水位観測所においては、平成16年9月出水と比べ、水位が約1.0m低下し、浸水被害を防止したと推定される。



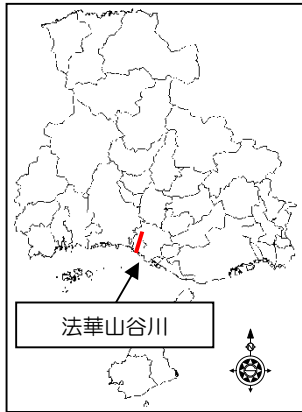
※外水氾濫による浸水



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

- 法華山谷川において、平成23年9月台風第12号の再度災害防止対策として、床上浸水対策特別緊急事業を実施。
- 平成30年7月豪雨において、志方雨量観測所で平成23年出水時と同等の累計雨量が観測されましたが、床上浸水対策特別緊急事業などの河道改修等により、床上浸水被害は無く、魚橋水位観測所において、約3m低い水位で安全に流下させることができました。

位置図

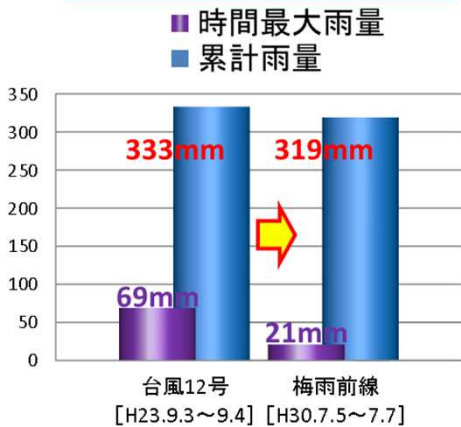


○法華山谷川床上浸水対策特別緊急事業

- ・延長: 13.3km
- ・内容: 掘削、護岸、橋梁架替等
- ・期間: 平成25年度～平成29年度

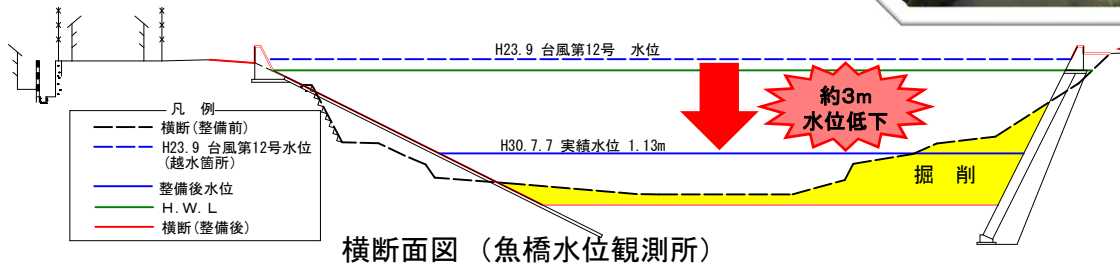


雨量の比較



被害軽減効果

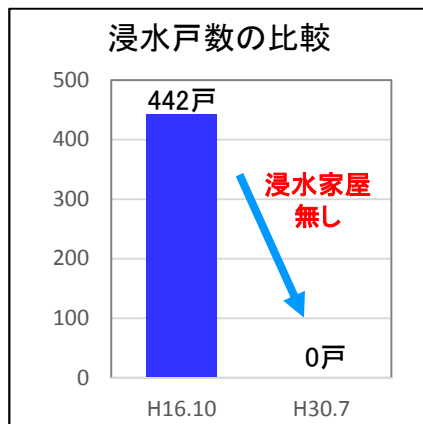
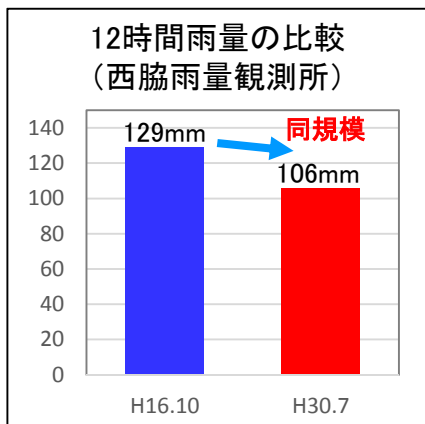
- ・H23年度の被災時の水位に比べて約3m低い水位で、洪水を安全に流下できました。
- ・床上浸水被害はありませんでした。



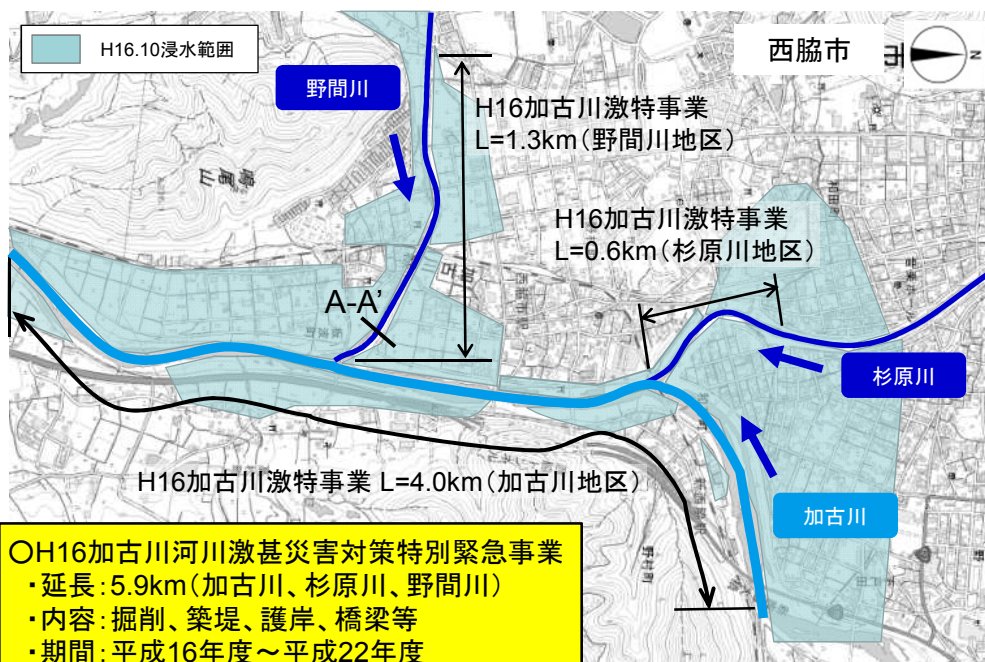
床上浸水無し

○加古川水系加古川(兵庫県管理区間)、杉原川、野間川においては、平成16年10月台風第23号の再度災害防止対策として、激甚災害対策特別緊急事業を実施。

○平成30年7月豪雨による出水では、西脇雨量観測所で平成16年10月出水時と同程度の雨量が観測されたが、激甚災害対策特別緊急事業などにおける河道改修等により、野間川では堤防越水による浸水被害を防止したと推定される。

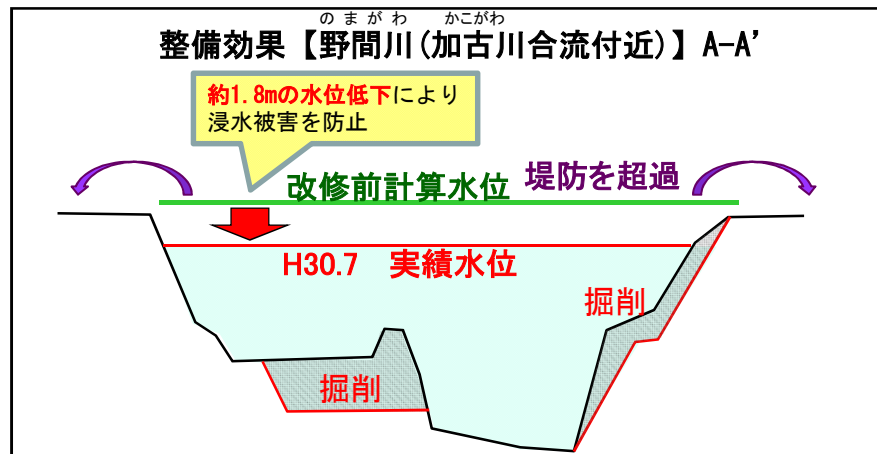


※外水氾濫による浸水



○H16加古川河川激甚災害対策特別緊急事業

- ・延長: 5.9km(加古川、杉原川、野間川)
- ・内容: 掘削、築堤、護岸、橋梁等
- ・期間: 平成16年度～平成22年度



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。